

教育講演 2

成人先天性心疾患の心臓手術と内科の役割

丹羽 公一郎

聖路加国際病院心血管センター 循環器内科 特別顧問

Summary

先天性心疾患の多くは、成人後に後期合併症（心不全、不整脈など）を伴い加療を必要とすることが少なくない。このため、小児期の修復手術の有無に関わらず、生涯を通じた経過観察と加療（手術を含む）を必要とする。内科医は、小児科から移行過程をへて引き継ぐが、基本的に小児期から、術前術後も含めて、内科（小児科）医が継続的に定期観察を行う。後期合併症は、疾患ごとに異なっており、それぞれの疾患の成人期の問題点や後期合併症、そして成人期の手術適応に関して、十分に理解しておくことが大切である。その内容に基づいて、経過観察中に予防治療を行うが、成人後は加齢に伴い生じる全身合併症を伴うようになり、その予防、早期診断、治療を行う事も必要である。術前の後期合併症や全身合併症の診断評価は重要で、心カテ、画像評価を十分に行うことも大切である。これらの評価は、外科、麻酔科、看護師などとの heart team で行うことが望ましい。術前に不整脈アブレーションや全身合併症の加療を行う場合もある。自立がはかれていない患者が多く、手術の必要性など内科医から、本人だけでなく、両親にも伝えると良い場合が少なくない。術直後は多くの場合、外科医と集中治療医が担当することが多いが、術後の外来は、内科医が担当して、薬剤の調製や病態の変化の把握などを行いながら、術式に固有の続発症、遺残症に注目しつつ、その後の長期の経過観察を行う。

略歴

丹羽公一郎（にわ こういちろう） FJCC

1976 年 千葉大学医学部卒業

〔職歴〕 千葉大学医学部小児科で研修。東京女子医科大学心臓血圧研究所小児科、千葉大学医学部小児科、千葉県こども病院循環器科、UCLA Armanson Adult CHD Center、千葉県循環器病センター成人先天性心疾患診療部を経て、2011 年より聖路加国際病院心血管センターセンター長、現在、同非常勤嘱託

〔専門領域〕 成人先天性心疾患、小児循環器